

## レッドデータブックの調査から — 2種の石灰岩生植物 —

吉田 考 造

環境省のホームページによれば、日本における絶滅のおそれのある野生生物は平成19年（2007）8月発表の時点で、動物 2,014種、植物等 2,814種、計4,828種という膨大な数に達しています。

現在、埼玉県でも2005年版埼玉県レッドデータブック植物編（1,035種）の再改訂作業に取り組んでいます。その作業の一環として、生育地の現況調査も行っています。担当分野（地衣類）以外ですが、目にとまった植物2種を紹介します。

### 1. タカネコウリンカ（キク科）

（埼玉県絶滅危惧B類）

各種の図鑑や2005年版の解説では、本州中部の高山帯の草地に生育し、開花は8月、と記されていますが、県内分布の記述の元になった報告「埼玉県におけるタカネコウリンカの新産地」（平ほか、2002:埼玉生物, 42:18-20）や今回の撮影データ（標高約1600m、10月2日）とでは若干の食い違いがみられました。県内唯一の生育地が石灰岩地で林道脇であることから、低標高地での生育を可能にし、また、開花時期についてもかなりの幅をもったといえるかもしれません。また一方では、林道脇という攪乱されたところであり、どこから侵入定着したのか、など謎めいたところもあります。



タカネコウリンカ（2009/10/2 秩父市大滝）

### 2. イチョウシダ（チャセンシダ科）

（埼玉県絶滅危惧IA類）

日本全土の暖温帯から中間温帯にかけての林中、またはやや裸出した石灰岩の間隙に生じるシダといわれています。埼玉では、秩父山地の石灰岩峰で知られる二子山や梓白岩<sup>あずさしらいわ</sup>などで生育が確認されています。ところが、“秩父でも林道脇に生育していた（写真参照）”、とは驚きでした。かつて、長野県側の南アルプススーパー林道脇の落石防護ネットの内側にも、また、戸台川沿い工事道脇露頭にもたくさん生育していたのを見ていたからです。かつて何度か通った林道ですが、関心が薄かったこともあり、お粗末ながら、今回が初め



イチョウシダ（2009/8/26 秩父市大滝）



イチョウシダの自生地（秩父市大滝）

での確認。その自生地は2桁の株が確認できるほどの一群でした。

（よしだ こうぞう・専門員兼学芸員）